

2019年1月 (No.355)

主な内容とページ

100年に一度の革命と静かなエレクトロニクス産業	1
落ち込みに歯止め、わが国電子機器産業	2
半導体の世界需要、スマホとメモリ失速でマイナス	5
半導体の国内需要は底打ち、堅調を見込む	6
岐路に立つ日本の情報通信家電産業	6
国内のモノ作りと AI、IoT 利用拡大	7
AI の躍進	9
まるごと戦略の優劣(SRL だより)	11

100年に一度の革命と静かなエレクトロニクス産業

デジタル革命、変革の時代だが、わが国エレクトロニクス産業は、余り動きがみられない。

1. わが国エレクトロニクス産業の生産は最悪の状態からこのところ横ばい、脱しそうな動きも散見されるが、力強さはみられず、革命、変革の時代とはかけ離れているようだ。
2. AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)に代表される新技術の利用、排気ガスゼロの自動車の開発などが日本の産業界に多大な衝撃をもたらしている。エレクトロニクス産業は、その推進、支え役として果敢な挑戦が求められている。
3. 半導体は、メモリとスマートフォンのブームが終焉。世界的にはブームの反動が避けられそうもないが、日本は、ブームの恩恵は少なく、全産業一丸の変革対応で成長確保が大事だろう。

まるごと戦略の優劣

「まるごと」の言葉をよく耳にするようになった。最新の車の安全運転装置あるいは住宅に必要なもの全てを一括して提供する。いずれもソフトウェア、サービスなどもからみ複雑、多様なものをまとめて面倒みますよというのが売り。ターンキー、ワンストップ、丸投げなども、ある面で同じような意味で使われている。

まるごとで、劣らぬのは、われわれの半導体だと思う。メモリ、プロセッサ、センサーいずれもかつては個々に設計、構成されていたものが、チップに組み込まれて置き換えられた。最新の人工知能(AI)分野では、これから各種プロセッサが登場、市場で選抜され、勝ち残ったものは、天下を取る可能性が高い。

従ってまるごとは必然としても、その優劣は何か、興味深い。インテルの場合は、マイクロソフトや高価だったDRAMを安く作ったメモリ会社が寄与。まるごとは、自ら核となる技術、価値を持つ一方、その価値をより増大、占有できる相手と組むことにも依存しそう。もちろん伸びている分野でなければ、効果は薄い。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報をSRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2019年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2019年1月(毎月1回発行)第30巻1号(通巻355号)

発行元:株式会社SRL

〒188-0014 東京都西東京市芝久保町3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

January 2019, No.355

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014

Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2019

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)